

2021年8月号

馬場川新聞

あなたも「めぶく。」しませんか？

馬 BABAKKAWA URBAN DESIGN PROJECT



馬場川通りアーバンデザイン プロジェクト準備委員会、始動!

初めての まちづくり

2021年6月19日、馬場川通りアーバンデザインプロジェクト準備委員会の参加者にお集まりいただき、プロジェクトの説明会が実施されました。感染症対策のためのオンライン参加を中心に、会場参加とのハイブリット型で開催でしたが計60名もの方々にご参加いただきました。



説明会ではまず冒頭、MDCが発行した「超前橋大百科」の紹介をしました。こちらは、前橋に関連があるワードに絞り、まじめに、面白く解説した冊子(MDC事務局にて配布中)です。今回は「前橋市アーバンデザイン」や「エコ・ディストリクト」などプロジェクトに関連するワードについて、この冊子を使って説明しました。



次に、まちづくりの基本方針である「前橋市アーバンデザイン」の解説をしました。アーバンデザインという言葉は聞いたことはあるけれど、具体的な内容はよくわからない

という方のために、策定の目的や役割を中心にご紹介しました。こうした基本方針に基づく先行プロジェクトの1つが「馬場川通りアーバンデザインプロジェクト」になります。続いてMDCの日下田氏が、そのプロジェクトの概要について説明しました。ポイントは「官民連携」のプロジェクトであること。また、アーバンデザインとして、単なる公共空間の土木工事ではなく、場を核とした継続可能なコミュニティづくりも並行して進めることに大きな意味があると話されました。

最後に、馬場川通りの歴史について馬場川通り親交会会長の北原氏にご説明いただきました。ご自身が馬場川を舞台にチンドン屋さんをされていた経緯もあり、ご使用されていた楽器を演奏しながらのご入場。昔と今では馬場川の姿は大きく変わっていますから、懐かしい写真を使って当時の思い出を面白おかしく解説していただきました。

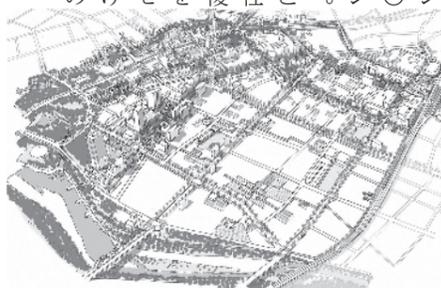


アーツまえばし【アーツ前橋】まちなかにある美術館。ミニ映画館も併設されている。06年に閉館したデパート「西友LIVING前橋WALK」が13年に美術館「アーツ前橋」として改修された。設計コンペを行ったことや、当時としては目新しいSNS等を通じたメディア戦略、〇〇美術館ではなくアーツという名称など広く注目を集めた。後のまちづくりに繋がるクリエイティブ・カルチャーの大きな契機であった。博物館法上は「博物館相当施設」に分類されており「ワクにはまらない」ところが価値である。

アーバンアグリカルチャー【urban agriculture】都市農業のこと。元々は都市部でのコミュニティ農園等を指すが、ビル内での植物工場や屋上農園等への進化がみられている。「まえばしハニープロジェクト」として前橋テルサ最上階ホテルの中庭で行われている養蜂もアーバンアグリカルチャー。前橋ではハエがいるかと思っただらミツバチだった…なんてことも。

アーバンデザイン【urban design】①都市における環境・空間・街並みなどを計画する都市計画の用語。Urban Designを直訳すれば「都市設計」であるが、広義の都市計画に対して、工学的学術を都市工学、設計行為を都市設計、都市空間

の意匠やデザインをアーバンデザインと使い分けるのが一般的である。②「めぶく。」ビジョンに基づいて19年9月に前橋市が策定したまちづくりの基本方針。市が中心となり市民の声を集め、地元・海外の専門家の力を借りてまとめた前橋中心市街地158ha(前橋駅・中央前橋駅・県庁)についての「なりたい姿」。同年に商工会議所が策定したまちづくりの指針「Green & Relax」が言葉を使わずに概念を示したものであるのに対して、ビジュアルな表現を含めた共通認識を示したもので対を成す性質のものである。③比較的ポピュラーな商号、組織名称。千葉県「柏の葉アーバンデザインセンター」に倣い全国に〇〇アーバンデザインセンターが多く設立された。「アーバンデザイン」という商号の不動産会社数が前橋市内他、全国に複数存在する。MDCを「アーバンデザイン」センターのように名付けたことは前橋の慧眼である。





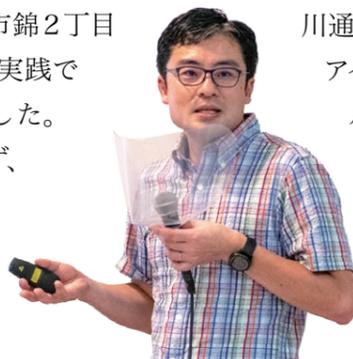
初めてのまちづくりセミナー&まちづくりワークショップ、開催！

第1回 2021年7月3日

馬場川通りアーバンデザインプロジェクト準備委員会の第1回となるセミナーとワークショップが開催されました。感染症対策を考慮し、会場とオンラインのハイブリット形式で開催しましたが、セミナーには準備委員会以外の一般の方も含む計103名、ワークショップにも計47名と非常に多く、しかも老若男女、多世代の方々にご参加いただきました。そしてなんと、オープニングに前橋市の山本市長が駆けつけていただき、ご挨拶いただきました。



記念すべき第1回のセミナーは、東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 都市計画研究室 准教授 村山頭人先生によるご講演でした。まちづくり基本編として「エコディストリクトって何だろう？～その枠組みと日米における実践～」というテーマで熱く語っていただきました。持続可能な開発目標 (英語: Sustainable Development Goals: SDGs) について理解を深め、都市をハード面やソフト面に分解しそれぞれの役割を整理することが重要であること。また、前橋市アーバンデザインとエコディストリクトの関係性や、ご自身が携わった名古屋市錦2丁目のまちづくり事例など、前橋でも実践できる内容をご紹介いただきました。90分というセミナーにも関わらず、参加者の方々が熱心にメモをとりながら耳を傾ける姿勢がとても印象的でした。



続くワークショップでは、高校生からシニアまで幅広い年代の方々にご参加いただき、混成の9チーム(うちオンライン1チーム)で馬場川通りのありたい姿を議論しました。ワークショップは初対面にも関わらず開始前からお互いに自己紹介し合うなど、終始和気あいあいとした雰囲気で行われました。議論のテーマは「エコディストリクトの視点から、前橋市街地をよくするアイデア」「10年後の馬場川のありたい姿を描く、〇〇(な人)にとって〇〇な通り」。昔から続く馬場川通りの魅力を維持しつつも、新たな名物を取り入れようと様々なアイデアであふれていました。オンラインチームもブレイクアウトルームで活発に議論して、様々な人の声になっています。大きなキャンパスに思い思いの気持ちを描くことで、アイデアとアイデアから新しいものが生まれたり、コミュニケーションが活発になる場面もありました。まさにアイデアがめぶいている素敵な瞬間が見られました。

第2回 2021年7月14日

馬場川通りアーバンデザインプロジェクト準備委員会の第2回のセミナーが開催されました。会場とオンラインのハイブリット形式で開催し、準備委員会以外の一般の方も含む計90名の方々にご参加いただきました。当初は第1回と同様にワークショップの同日開催を予定しておりましたが、当日は雨脚が強く前橋市の大雨警戒レベルが「4」となり、セミナーのみの開催に急遽切り替えました。(ワークショップは後日開催されました)



そのようななか第2回のセミナーは、株式会社オリエンタルコンサルタンツ 都市政策・デザイン部 ユニットリーダー 堀田陽子氏に登壇いただき、まちづくりハード編として「賑わいを生み出す道路・歩道デザイン事例」というテーマでご講演いただきました。様々な道路や道の機能について、堀田氏が行われた事例を交えてご紹介いただきました。ワークショップから道の設計に落とし込んだ実績など、とても馬場川通りの今後のためになる貴重なお話でした。途中から外は大雨で聞き取りづらいところも多々あったにもかかわらず、皆さん真剣な眼差しで耳を傾ける様子から、まちづくりに参加することに対する関心の高さが伝わってきました。

